

『もりおかの短歌』冬の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

「はい、じゃんじゃん」

はやしことば せ  
囃子言葉に急かされて

のど す いわて ふゆ  
喉を過ぎゆく岩手の冬よ

東京都三鷹市 山下 瑛大

き まえがみ ふ  
切りすぎた前髪に降る

ゆき なか  
雪の中

かいうんばし きみ ま とき  
開運橋で君を待つ時

北海道千歳市 三沢 聡子

さんりく しおか ふゆ さち  
三陸の潮香まぶしき冬の幸

なんぶびじん  
南部美人を

の ほ つま  
飲み干す妻と

神奈川県藤沢市 武 正義

息白く いきしろ

つめたい風吹くこの朝の かぜふ あさ

ひつつみしみる神子田朝市 みこ だあさいち

盛岡市 新沼 温斗

厳寒の岩洞湖にて げんかん がんどうこ

わかさぎを釣りし若さを つ わか

懐かしむ今 なつ いま

青森県青森市 鈴木 操

この街を去る日近づく大寒に まち さ ひちか だいかん

啄木がゐた たくぼく

雪道歩く ゆきみちある

滝沢市 田口 直彦

一面の いちめん

雪に映えたる赤レンガ ゆき は あか

明治の面影いまも静かに めいじ おもかげ しず

兵庫県伊丹市 島田 陽向

じゅうく

十九にて

ちち のぼ いわたさん

父が登りし岩手山

そのいただきに今夏挑まん  
こんかいど

神奈川県川崎市 正一 努

ほつきこう

北帰行

たきざわわ

滝沢分かれの木守り柿  
きも がき

あす ゆき わら

明日は雪だと笑ってました

青森県弘前市 木村 匡

たくぼく おどろ

啄木も驚くだろう

としあ こずかた さと

年明けの不来方の里

くまい

熊出でにけり

青森県青森市 加藤 健一郎

## 【講評】

今回の「冬の部」には全部で一四七首の作品が寄せられました。盛岡市に住んでいる方よりも、県外から旅行でいらっしやった方からの投稿が多かったと思います。修学旅行で盛岡を訪れ、その感動を詠んでくださった高校生のみなさんもいました。よい記念になったのではないのでしょうか。担任の先生に感謝いたします。

投稿してくださったみなさん、どの方も「私は盛岡でこんなふうにした」「盛岡のこんなところが好き」という気持ちに溢れていて読んでいて楽しく、別の視点から教えられることが多かったです。長く地元に住んでいると気づかない盛岡のよさがたくさんありました。

優秀賞になった十名の方の作品は岩手山、岩洞湖、神子田朝市、開運橋など盛岡に関わる固有名詞を生かして詠んだ方、雪や冬というこの季節そのものを歌に入れた方などさまざまです。どの作品も具体性があったり盛岡の冬を印象的に伝えてくれました。具体的なものやこと、行動、回想があると作品がぐっと締まって読み手の共感も高まります。

高校生の方を始めとして十代二十代の方たちの参加が多かったのはとても喜ばしいことだと思いました。きっと啄木さんも嬉しかったことでしょう。ありがとうございました。

令和八年三月選 冬の部

投稿数 百四十七首

選者 吉田 史子